
理系図書館基本計画

目次

はじめに

1 基本コンセプト

1.1 理系図書館の基本コンセプト

1.2 基本コンセプトを実現するための具体的事項

1.2.1 先端的な電子図書館の構築

1.2.2 自然科学系図書館

1.2.3 図書館職員による充実した支援サービスの実現

1.2.4 開かれた図書館の実現

2 基本機能

2.1 電子図書館機能

2.2 ウェスト・ゾーン地区図書館としての機能

2.3 学習図書館機能

2.4 研究図書館機能

2.5 教育機能

2.6 メディアセンター機能

2.7 保存図書館機能

2.8 研究開発機能

2.9 社会との交流機能

2.10 国際連携・交流機能

2.11 障害者支援機能

2.12 アメニティ機能

3 施設・設備

3.1 施設・設備の基本コンセプト

3.2 施設・設備に関する基本的要件

3.2.1 構造計画（構造の選択と構成）

3.2.2 階数構成等

3.2.3 平面計画・動線計画

3.2.4 開口部と動線

3.2.5 室内環境

3.2.6 維持と保守

3.2.7 危機管理

3.2.8 インテリジェント化

3.2.9 意匠

3.2.10 将来計画への対応

3.3 ゾーン構成

3.4 スペースの機能とイメージ

3.5 諸室計画

3.5.1 資料収蔵計画

3.5.2 諸室一覧

3.5.3 利用部門諸室詳細

3.5.4 管理部門諸室詳細

3.6 諸室配置計画（フロアプラン）

付属資料1 諸統計

付属資料2 身体障害者のための施設・設備上の要件

はじめに

附属図書館では、国立大学法人への移行、元岡地区新キャンパスへの移転などの課題に対応すべく、中・長期にわたる附属図書館の将来構想について検討を行い『九州大学附属図書館将来構想』をまとめた。元岡地区新キャンパスは平成17年後期に第1期開校の予定であり、新キャンパスの工学系地区に計画する理系図書館（仮称）は第1期開校に合わせて開館する予定である。この『理系図書館基本計画』は、『九州大学附属図書館将来構想』に基づき、理系図書館の新築計画にあたって必要な基本的事項を記述したものであり、実施設計等にあたって参考とすべきものである。

1 基本コンセプト

1.1 理系図書館の基本コンセプト

この章は理系図書館の基本的なコンセプトとそれを実現するための具体的な事項について記述されている。次章に記述される基本機能の一覧の中から特徴的な事項を取り上げて整理したものである。

先端的な電子図書館の構築

- § 研究室等に居ながらにして利用できる図書館の実現
- § 自動化書庫による資料出納の自動化を実現

自然科学系図書館

- § 基礎科学から応用科学までの分野の資料を包摂する自然科学系図書館
- § 学問的雰囲気と活気に満ちた学習図書館の実現
- § 機能的で充実した研究図書館の実現

図書館専門職員による充実した支援サービスの実現

- § レファレンス・サービス
- § 情報リテラシー教育

開かれた図書館の実現

- § 地域社会との連携
- § 国際交流
- § 障害をもつ利用者へのバリアフリー化

1.2 基本コンセプトを実現するための具体的な事項

1.2.1 先端的な電子図書館の構築

- § 研究室等に居ながらにして利用できる図書館の実現
- § 自動化書庫による資料出納の自動化を実現

<具体的には>

情報基盤センターとの連携のもとに、先端的な電子図書館の構築・運営を行う。

電子図書館、各種データベース・電子ジャーナル
各種手続きのオンライン化

- ・ ILL 申込
- ・ 図書購入申込
- ・ 資料配送サービス申込
- ・ 施設利用予約（グループ学習室、研究個室等）
- ・ その他

オンライン・レファレンス

- ・ メールによるレファレンス申込
- ・ レファレンス支援システム（レファレンス事例データベース）

過去からの膨大な蓄積を有する研究用図書、雑誌バックナンバーの大きなボリュームを地階に設置する自動化書庫に効率的に収蔵し、端末からの呼び出しにより資料出納を自動化することで、資料へのアクセシビリティの向上及び省力化を図る。

資料配送システムの構築

- ・ キャンパス内・キャンパス間配送システムによる資料の物流システムの構築
- ・ 学内図書館間における電子的画像伝送システムの導入

1.2.2 自然科学系図書館

- § 基礎科学から応用科学までの分野の資料を包摂する自然科学系図書館
- § 学問的雰囲気と活気に満ちた学習図書館の実現
- § 機能的で充実した研究図書館の実現

<具体的には>

数理学分野を中心とした基礎科学分野から工学、システム情報科学、理学、農学などの応用科学分野までの広範な自然科学分野の学生用図書、研究用図書を核としたコレクションにより、学習図書館機能、研究図書館機能の提供を行う。

研究図書館機能の充実 ~ 研究に必要な資料の世界水準の質と量による蓄積と提供

- ・数理学分野を中心とした充実した基礎科学分野のコレクションの構築
- ・応用科学分野の体系的コレクションの構築
- ・特色ある分野の資料の充実には特に注力

学習図書館機能の充実

- ・学生用図書の体系的コレクションの構築
- ・学生・院生の人間性、社会性を育成する資料・情報の収集・提供
- ・学習用図書と研究用図書を一元的に配架し、学習から研究へのステップ・アップに配慮。

多様なメディアによる学術情報を利用できる環境の整備

- ・各種情報機器の整備

情報を加工・編集できる環境の整備

- ・各種情報機器の整備
- ・資料・論文作成、研究発表準備のための各種機器の整備

多様な利用者用スペースの提供

- ・閲覧、学習、研究、ゼミ等に対応したスペースの整備
- ・ゆったりとくつろぎながら学習、研究、読書ができる滞在型の図書館の実現

1.2.3 図書館専門職員による充実した支援サービスの実現

§ レファレンス・サービス

§ 情報リテラシー教育

<具体的には>

利用者サービス部門に業務体制の重点を置き、すべての利用者に対して充実したきめ細かなサービスを提供する。

レファレンス・サービス

- ・主題専門知識を備えた図書館専門職員によるレファレンス・サービスを展開。

情報リテラシー教育

- ・授業の一貫としての情報リテラシー教育の展開。

1.2.4 開かれた図書館の実現

§ 地域社会との連携

§ 国際交流

§ 障害をもつ利用者へのバリアフリー化

<具体的には>

地域社会との連携の推進

国際交流の推進

障害を持つ利用者に対するバリアフリー化を推進

2 基本機能

2.1 電子図書館機能

九州大学附属図書館全体の電子図書館システムの構築・運用を行う。
業務システム及び電子図書館システムの基盤をなすサーバ等の機器類は理系図書館に配置し、理系図書館の担当掛において情報基盤センターの協力を得ながら管理を行う。
データベース、電子ジャーナル、独自に電子化された各種資料等を利用できる電子図書館の利用環境を提供する。

2.2 ウェスト・ゾーン地区図書館としての機能

中央（文系）図書館と連携し、理系図書館における蔵書構築計画の立案を行う。
中央（文系）図書館と連携し、理系図書館におけるサービス計画の立案を行う。

2.3 学習図書館機能

指定図書やシラバス掲載図書を始め、体系的で網羅性のある学生用図書を配置し、ウェスト・ゾーンにおける学部学生を対象としたサービスを提供する。
閲覧席、キャレル、グループ学習室など目的ごとに選べる多様な学習スペースを提供する。
「情報サロン」を設置し、コンピュータやネットワーク、データベース等の利用環境を提供し、情報リテラシーの習得を支援する。

2.4 研究図書館機能

研究用図書を集約し、体系的な蔵書構築をはかることにより、研究者に対する学術情報資源の効率的なサービスを提供する。
自然科学関連の大型コレクションを配置し、研究者へのサービスを提供する。
自然科学関連の学術雑誌を集約し、研究者へのサービスを提供する。
各種二次資料等の参考図書や、各種のデータベース利用環境を整備し、高度な学術情報の利用環境を提供する
情報の探索を支援するレファレンス・サービスを提供するとともに、ILL サービスによって他キャンパスの図書館に所蔵される資料や学外他機関に所

蔵される資料の提供を行う。
閲覧席、キャレル、研究個室、演習室等の多様な研究用スペースを提供する。

2.5 教育機能

データベースの利用方法やインターネット上の情報検索方法などの各種講習会や授業と連携した情報リテラシー教育などを企画・実施し、学生・教職員の情報リテラシー向上を支援する。

2.6 メディアセンター機能

ビデオ、DVD、CD-ROM等の各種AV資料やマイクロ資料等の多様なメディアによる情報をサービスするとともに、放送大学の受信設備を提供する。
独自の教材やプレゼンテーション用資料の作成など利用者自身が情報を加工し創造する設備を提供する。

2.7 保存図書館機能

自然科学分野の利用頻度が低下した資料を保存する書庫を設置する。

2.8 研究開発機能

研究開発室を中心にして、データベースの構築方法、電子図書館システムの開発等、図書館の先端的分野における研究開発を行い、図書館サービスの高度化を図る。

2.9 社会との交流機能

図書館を広く地域社会に開放し、市民の生涯学習のための利用に供する。

2.10 国際連携・交流機能

留学生のための母国語の新聞・雑誌、図書等を配置する。

2.11 障害者支援機能

障害を持つ利用者が支障なく図書館を利用できるように、施設・設備面及び人的なサービス体制面においてバリアフリー化を行う。

2.12 アメニティ機能

閲覧席から休憩設備に至るまで、あらゆる設備・環境について居住性の向上に配慮し、“場”としての図書館空間を構築する。

3 施設・設備計画

3.1 施設・設備の基本コンセプト

ウエストゾーンのシンボルとしての図書館

ウエストゾーンのシンボルとして、印象的な建物とする。

滞在型図書館

館内は、快適なアメニティ空間を目指し、学習、調査・研究、読書などのために長時間滞在したくなるような空間を創出する。

多様なニーズへ柔軟に対応する図書館

利用者のさまざまな研究・学習スタイルに応じて選択できるよう、閲覧室・グループ学習室・研究個室など多様なスペースの提供を行うとともに、社会の変化に柔軟に対応できる施設の整備を図る。

快適かつ環境に配慮した21世紀型図書館

人にも資料にも快適な環境（温湿度・照明）を提供しながらも、採光の工夫、自動点灯・消灯、部分空調の採用など、省エネルギーに配慮し、ライフサイクルコストの低減を図る。また、24時間開館に対応可能な空調・照明設備を整備する。

分かりやすい（人に易しい）図書館 - アクセシビリティの確保

資料や諸室へのアクセシビリティを確保するために、分かりやすいフロア構成や、書架の配置に配慮し、適切なサイン計画を進める。まただれもが自由に安全に利用できるよう、ユニバーサルデザインを採用する。

安全な図書館 - セキュリティの確保

非常時（事故・災害時）における利用者及び職員の安全を確保するとともに、図書館資料の保全が可能な施設・設備とする。

将来の拡張性への対応

将来にわたって図書館が担うべき機能の変化に柔軟な対応ができるような施設計画とする。

3.2 施設・設備に関する基本的要件

3.2.1 構造計画（構造の選択と構成）

- 1) 免震・制震構造とする。最大級の地震でも書架が倒れず、地震後も構造体の大きな補修を行うことなく建物を使用でき、最短時間でサービス再開を可能とする。

2) 構造柱の配置には、書架の効率的配置を優先的に考慮する。また、各フロアの耐震壁・構造柱は将来の書架・諸室の再配置や増改築等、諸環境の変化に柔軟に対応できるように配置する。

3) 各フロアの荷重耐力には、集密書架の設置を想定し、相当の余裕を持たせる。地階は、自動化書庫の設置が可能な荷重耐力を持たせる。

3.2.2 階数構成等

3.2.2.1 フロア配置

1) 利用者スペースは、無理なく階段を使って昇降できる階に配置する。また、24時間開館時に利用者スペースを区切って開館できるような階の構成とする。

3.2.2.2 容積性能

- 1) 開架書架スペースと保存用書架スペースを有し、開館後15年間程度の増加量を見込んだ蔵書量を収容できるスペースを確保する。
- 2) 地階には、自動化書庫の設置が可能な立体的スペースを確保する。

3.2.3 平面計画・動線計画

3.2.3.1 基本方針

- 1) 建物の平面は、資料の収蔵能力を高めるとともに、利用者等の動線が短くなるように計画する。
- 2) 入館の際、また各フロアにおいて、全体を見渡せるようにする。

3.2.3.2 諸施設の配置

- 1) 階段は、利用者用・業務用ともに、分かりやすい位置に設置し、複雑な形状を避ける。階段の構造は、下階から階段内への視線を妨げられるものとする。
- 2) エレベーターは、利用者用と業務用を別に設置し、位置についてはそれぞれの動線を十分考慮すること。
- 3) 各フロアに複数のトイレを男女別に設置する。それぞれに車いす使用者用便房を確保する。
- 4) 館内は一定レベルの静寂な空間を保持しながら、音源となりうる施設（階段等の利用者の主動線、休憩スペース等）と特に静寂を要する施設（閲覧席、研究個室等）を分離するなど、配置の仕方を考慮する。

- 5) 利用者スペースの各室を、利用者に分かりやすく、またカウンターから案内しやすい位置に配置するとともに、階段やエレベーターからアクセスしやすいように計画する。
- 6) 事務スペースは、サービス系事務スペースをアプローチ階入口近くに設置し、隣接またはエレベーターで直結する位置に管理系事務スペースを設置する。
- 7) 利用者と職員・業者の動線を明確に分離し、それぞれの動線が短くなるよう諸室の配置を計画する。
- 8) 諸室については、利用者が快適に利用できるよう、かつ業務が機能的に遂行できるように計画する。詳細は、「3.5 諸室計画」「3.6 諸室配置計画」による。

3.2.3.3 バリアフリー

- 1) 同一フロアはすべてフラットにし、ブックトラックや車いすでも支障なく移動できるようにする。
- 2) 身障者が支障なく安全に、かつ快適に施設を利用できるように計画する。詳細は「付属資料2 身体障害者のための施設・設備上の要件」による。

3.2.4 開口部と動線

3.2.4.1 図書館へのアクセス

- 1) 利用者、職員、業者等が図書館に容易にアクセスできるように計画する。特に、車イス使用者（利用者、職員）のアクセスに配慮する。
- 2) 図書館周辺に自転車が放置されないように、近接して駐輪場を計画する。

3.2.4.2 利用者等入口

- 1) メインエントランスは、図書館及び情報基盤センターを利用するすべての利用者を受け入れる場所として機能する。
- 2) 情報基盤センターにおいて授業を受ける学生が利用する出入口、階段はメインエントランス、図書館側に設置する階段とは別に設け、多人数の学生が同時移動することによって発生する混雑、騒音の発生が、図書館利用者の利用上の障害にならないように計画する。
- 3) メインカウンターに近接してBDS（ブックディテクション・システム）を設け、図書館利用者の入退館を管理する。BDSのゲートは、車イスが余裕を持

って通れる幅とし、また段差がないようにする。

- 4) 研究棟からの地下通路は、利用者がBDSを通過して入館するように経路をメインエントランスに導く。

3.2.4.3 搬入口

- 1) 駐車場に隣接して搬入口を設ける。雨天時にも雨に濡れずに物品等の搬入・搬出ができるように図書館構内に駐車スペースまたは、搬入口に接して屋根付きの駐車スペースを計画する。
- 2) セキュリティチェック（IDカードによる認証）を必要とし、カメラ、インターホンにより、事務室からの遠隔操作でドアの開閉ができるようにする。
- 3) ブックトラック・台車が日常的に通行するので、段差を設けない。
- 4) 業者等の動線が利用者の動線と交差せず、最短距離で事務室と行き来できるよう配慮する。駐車場からの車いす使用者が入館する入口としても使用する。

3.2.4.4 職員通用口

- 1) 職員通用口は、バス停・駐車場・駐輪場からのアクセスのよい位置に設け、利用者の動線と交差せずに事務室へアクセスできるようにする。
- 2) セキュリティチェックを必要とする。事務室に所用のある研究棟からの教職員もここより出入りする。

3.2.4.5 その他

- 1) すべての開口部は非常用出口となるため、非常時にはセキュリティチェックなしで退出できるようにする。
- 2) すべての屋外への開口部には雨を避けられる場所を設ける。

3.2.5 室内環境

3.2.5.1 空気調和

- 1) 結露が発生しないように、構造体の断熱を完全に行い、室内側の表面温度を高めるとともに、室内温度が均一になるようにする。
- 2) 室内が均一に冷暖房されるようにする。また、上部が吹き抜けになっているフロア部分においても床暖房等を考慮し、上下階で温度差が生じないようにする。

- 3) 空調機能により資料保存に最適な湿度管理が行えるよう計画する。
- 4) 各フロア毎・各室毎に、温度・湿度のきめ細かい調節ができるようにする。
- 5) メインカウンター（またはサービス系事務室）ですべての空調機能のコントロールが可能なようにする。
- 6) 以下にあげるような省エネルギーに配慮した方式を考慮し、環境面、価格面ともにライフサイクルコストの低減につとめる。
 - ・外気の温度・湿度を測定し、換気扇により外気導入ができるよう考慮する。
 - ・計算機や無停電装置から出る廃熱を利用した暖房、夜間電力を利用したエコアイスによる冷房等を考慮する。
 - ・空調効率を上げるため、南側の窓には30cm程度の庇を設けることを考慮する。
 - ・空調効率を上げるため、夏季に照明機器の発熱による暖気を外部に放出するルートを確認する。

3.2.5.2 採光性能

- 1) どの時間帯でも資料に直接日光があたらないよう採光を工夫する。
- 2) 窓際の閲覧席への日光の直射を防ぐよう窓の配置及び形状を工夫する。
- 3) 外からの採光、室内灯からの採光のいずれも、紫外線を防止する。
- 4) 廊下、トイレはセンサーにより、使用するときのみ照明を点灯する。
- 5) 窓際の照明はセンサーにより、自動的に照度を調節する。
- 6) 図書館各室の照明制御は、各室で個別に管理する他、メインカウンター（またはサービス系事務室）で一括管理する。
- 7) 閲覧席、書架は使用時に十分な採光が得られるよう個別照明を考慮する。書架照明は、センサーにより点灯する方式を考慮する。

3.2.5.3 遮音性能

- 1) 外部の騒音（日常的な騒音に加え、工事等の非日常の騒音についても）に対し、静寂を保ちうる。
- 2) 情報基盤センターとの間は、音を完全に遮蔽する。
- 3) 事務室の騒音が利用者スペースに漏れないようにする。
- 4) 騒音が発生しにくい床素材を採用する。
- 5) 空調機室、エレベーター室等に起因する騒音が利用者スペースに漏れないよ

う遮音、防音等を十分に行う。

3.2.6 維持と保守

- 1) 太陽光発電等の併用による節電や、空調エネルギーの節約、閲覧席の個別照明、センサーによる自動照明等、可能な限り省エネルギーに努め、ライフサイクルコストをおさえた環境配慮型の施設とする。
- 2) 諸設備のメンテナンスにできるだけ経費と時間と手間がかからないよう考慮する。
- 3) 屋上の雨漏り、内部配管からの漏水は、速やかに補修できること。
- 4) すべての照明器具は、取り替えが容易に行えること。
- 5) 清掃が容易な館内環境とする。
- 6) 海風による塩害を防止する。
- 7) 内装・外装ともにシンプルなものとし、メンテナンスが容易にできるよう考慮する。
- 8) 家具の追加・入れ替え、配置替え等がスムーズにおこなえるよう考慮する。

3.2.7 危機管理

3.2.7.1 図書資料の安全確保

- 1) 漏水・浸水による図書資料の汚損が絶対に生じないようにする。大水害時にも漏水・浸水が生じない構造とする。
- 2) 火災発生時にも図書資料の焼損、消化剤による損傷を最小限に押さえるような構造及び設備を考慮する。
- 3) 地震発生時に、書架が転倒、変形しないよう耐震性の高い書架とする。また、資料の落下防止措置を講じる。
- 4) 配水管からの漏水による資料の汚損が生じないように、配水管を書架部分の上部を通過するように設置しない。また、配水管の材質と継ぎ手部分は破損の少ないものとするとともに、定期的に点検を行う。
- 5) 屋上貯水槽は、地震発生時に漏水しないよう耐震性にすぐれたものとする。
- 6) 床は防水性に配慮する。

3.2.7.2 利用者・職員の安全確保

- 1) 緊急時の避難・誘導が速やかに行えるよう、館内が見通せるとともに、どの

- 位置からも分かりやすくかつ短距離になるよう避難経路を確保する。
- 2) 身体に障害のある者も、確実に安全に避難できるよう、誘導設備を整備する。
 - 3) 緊急時の情報伝達手段を整備する。館内のどこにいても、どの時間帯でも速やかに情報を獲得できること。視覚・聴覚障害者も確実に情報を獲得できる手段を整備する。
 - 4) 地震発生時に、照明器具の落下、書架の転倒を防止する措置を講じる。
 - 5) 地震発生時に、室内に置かれた物(図書、家具等)が散乱しても扉の開閉ができるように扉を設置し、避難経路が確保できるようにする。

3.2.7.3 セキュリティ・防犯機能

- 1) 防犯のため、利用者スペースには人の目の届きにくい場所をつくらない。必要に応じて防犯ベルの貸出を行うことも考慮する。
- 2) 総合警備システムの導入により、防犯上のセキュリティを確保する。
- 3) ID カードにより、図書館利用者、図書館管理者(図書館職員)などの種別に応じて立入り可能なエリアを管理する。
- 4) 必要に応じて防犯カメラを設置し、サービス系事務室内で集中監視する。

3.2.8 インテリジェント化

- 1) 空調、照明、入退室管理等の設備を集中管理できるシステムを考慮する。
- 2) 館内の利用者スペースにパーソナルコンピュータを分散配置する。このため、十分な電源容量、OAフロアを考慮する。
- 3) 閲覧席の一部を、利用者がパーソナルコンピュータ(ノート型)を持ち込んで利用できるようにする。このため、電源、情報コンセントを計画する。無線LANの使用も考慮する。
- 4) 事務スペースは、将来にわたっての情報化の進展、組織の改編等を考慮し、OAフロアとする。

3.2.9 意匠

- 1) ウエストゾーンの諸施設と一体的にデザインされ、かつシンボルとして印象的な建物とする。また、周囲の景観と調和し、緑や眺望を生かした計画とする。
- 2) アプローチ階は、不特定多数の来館を意識した開放感あふれるデザインとする。

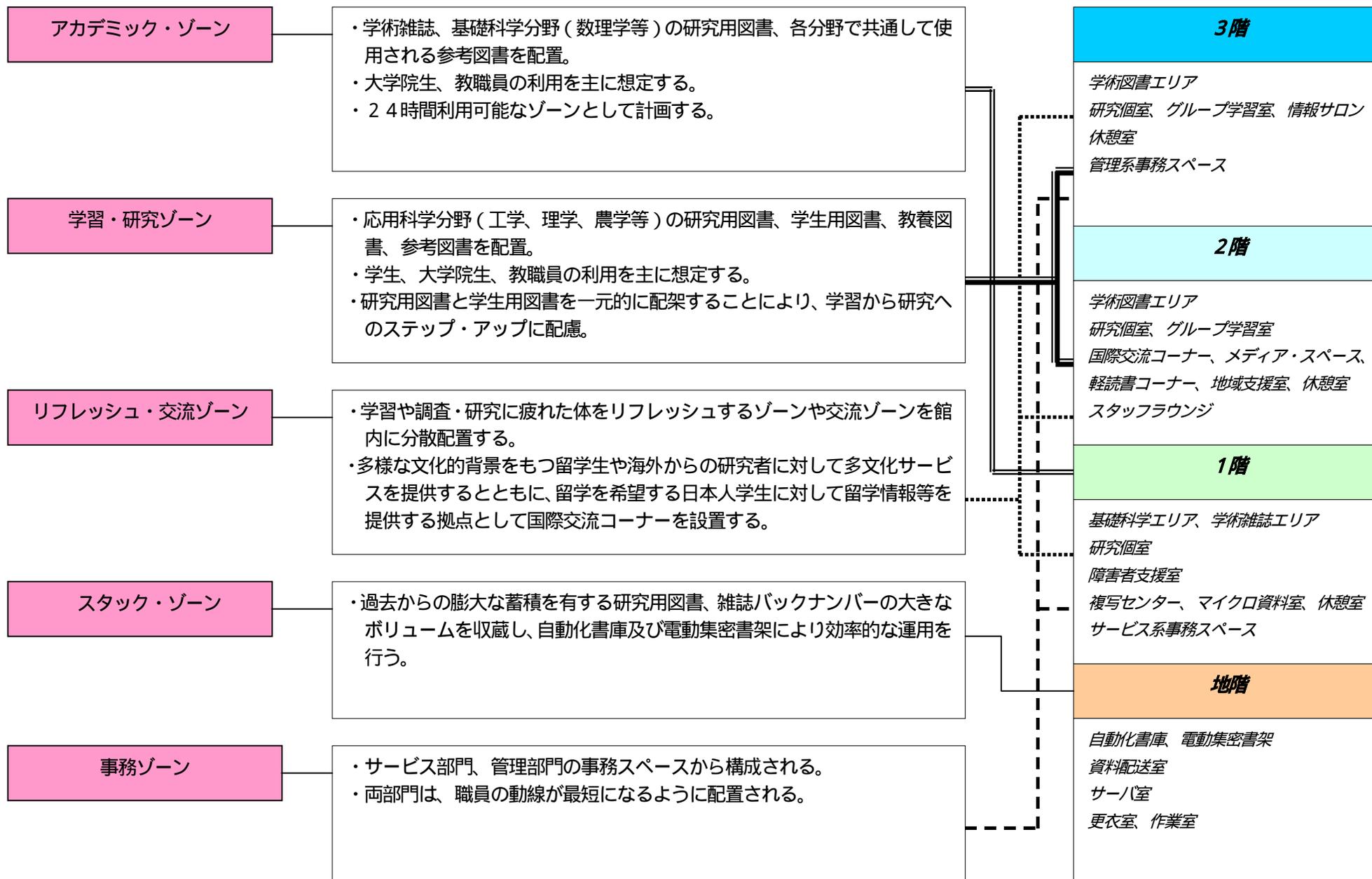
る。

- 3) サイン計画は、キャンパス全体のサイン計画と整合をとりつつも、デザイン性にとらわれずだれにでも認識しやすいものとする。
- 4) 内装は、機能的かつ快適さを追求し、見た目の美しさのみにとらわれない。
- 5) 閲覧机・イス、書架、カウンター等の家具は、内装と調和したデザインとするとともに、機能的で使いやすいものとする。

3.2.10 将来計画への対応

- 1) 将来の増築を前提として、隣接して増築用地を確保する。
- 2) 別棟増築を考慮した建物とすること。増築後に全体を一つの施設としてスムーズに利用でき、接続部に段差や不必要な壁・柱が生じない。
- 3) 将来、図書館に要求される機能の変化に柔軟に対応できるよう、諸室は可能な限り可動壁とする。

3.3 ゾーン構成



3.4 スペースの機能とイメージ

アプローチ

[玄関ホール・ロビー]
理系図書館の顔として、明るく開放的で、ゆったりとしたゆとりのある空間とする。

[常設展示スペース]

[休憩スペース]
情報基盤センターへのアクセス経路にカフェ等を伴った小規模な休憩スペースを設置。



写真提供 日本ファイリング(株)

事務ゾーン 1

[メインカウンター]
総合案内、貸出・返却、相互協力、参考業務の窓口を設置。

[サービス系事務スペース]
閲覧、相互協力、参考業務等の事務スペースを設置。



写真提供 日本ファイリング(株)

アカデミック・ゾーン

[学術雑誌エリア]
§ 自然科学分野の学術雑誌新着分(2,500タイトル)を展示配架するとともに、5年分のバックナンバーを配架する。
§ 自動化書庫出納ステーションにより、書庫内の学術雑誌バックナンバーとの連続性を保持する。
§ 複写センターを設置する。

[複写センター]

[自動化書庫出納ステーション]



[基礎科学エリア]
§ 数理学分野を中心として、物理学・化学・生物学などの基礎科学分野の研究用図書65,000冊を配置し、あらゆる分野の研究者が利用する。
§ 多様な閲覧スペースを配置し、長時間滞在しながら研究に打ち込める環境を提供する。



[研究個室スペース]
§ ゆったりとした大きめの個室(15㎡)と小さな個室(5㎡)を設置。



[閲覧スペース]
§ キャレリ、4人掛机、6人掛机などを組み合わせて設置し、利用者の閲覧スペースに対する多様な要求に対応。

学習・研究ゾーン

[学術図書エリア]

§ 工学系・理学系・農学系の研究用図書、自然科学系学生用図書、教養図書、参考図書を配置し、学生及び院生・研究者が学習、研究のために利用するエリア。

§ 多様な閲覧スペースを配置し、長時間滞在しながら研究や学習に打ち込める環境、グループでの学習・研究ができるスペースを提供する

[閲覧スペース]

§ 閲覧スペースを次の2つの種類のスペースに区分。

特に静寂な閲覧スペース（PC、電卓使用不可） 静寂な閲覧スペース（PC、電卓等使用可能）

§ キャレル、4人掛机、6人掛机などを組み合わせて設置し、利用者の閲覧スペースに対する多様な要求に対応。



[研究個室スペース]

§ ゆったりとした大きめの個室（15㎡）と小さな個室（5㎡）を設置。



[情報サロン]

§ 講習会の開催が可能なように1室20台の室を設ける他、他は5~10台程度のまとまりで分散配置。

§ 情報サロンとして使用する他に、レポート、プレゼンテーション用資料の作成も行えるようにする。



[グループ学習室スペース]

§ グループでの学習や討論に利用。

§ グループで専有して使用できる室（15㎡2室、30㎡2室）と、複数のグループが同時に使用できる室（90㎡1室）を設置する。



[検索用端末スペース]

§ 5~10台程度のまとまりで分散配置。

§ 検索用として使用する他に、レポート、プレゼンテーション用資料の作成も行えるようにする。



事務ゾーン 2

[管理系事務スペース]

資料の購入・整理等の管理部門事務スペースを設置。

[館長室]

[研究開発室]

[会議室]

[資料電子化作業室]

[荷受室]

[スタッフラウンジ]

スタッフがリフレッシュするためのスペース。1階事務スペースと3階事務スペースの間の2階に設置し、互いに交流が図れるようにする。また、情報基盤センター職員の利用にも配慮する。



リフレッシュ・交流ゾーン

[地域支援室]

地域市民に対するサービスの拠点とする。各種資料、PC等を設置。

[軽読書コーナー]

一般雑誌、新聞等を配置し、くつろぎながら読書できる空間とする。

[メディア・スペース]

AV資料を閲覧するブース及び放送大学受信設備等を設置する。

[休憩室]

利用者の休憩室として、1階~3階に設置する。自動販売機を設置し、飲食を可能とする。

[国際交流コーナー]

留学生等の海外からの利用者のための語学資料、新聞、図書や留学を希望する日本人学生のための各種資料を配置する。メディア・スペースと一体的なスペースとする。



スタック・ゾーン

[自動化書庫]

研究用図書、雑誌バックナンバーの大きなボリュームを収蔵するために自動化書庫を設置する。

